

**[成果情報名] カキのミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果**

**[要約]** 五條市の露地カキ圃場から採集したミカンキイロアザミウマに対し、殺虫効果が高かったのはプロチオホス、スピネトラム、クロルフェナピルの3剤であり、本種の主な加害時期である着色期に使用できる有効薬剤はスピネトラムのみだった。

**[キーワード]** 化学的防除、薬剤感受性、プラスチック管瓶法、アザミウマ目

**[担当]** 環境科

**[分類]** 普及・行政・教育の参考となる技術情報

---

**[背景・目的]**

カキではミカンキイロアザミウマの食害による果実の汚損被害が発生する。本種は抵抗性害虫であるため、定期的に薬剤感受性を確認して有効な防除薬剤を把握する必要がある。そこで、カキ産地で採集した3個体群について、簡易薬剤感受性検定を行う。

**[成果の内容・特徴]**

1. インゲン初生葉を検定植物にしたプラスチック管瓶法で検定を行ったところ、いずれの供試個体群でも殺虫効果が高かったのはプロチオホス水和剤、スピネトラム顆粒水和剤およびクロルフェナピルフロアブルの3剤だった(表)。
2. エチプロールフロアブル、シペルメトリン水和剤およびアクリナトリン水和剤はいずれの個体群にも効果が低かった(表)。
3. ジノテフラン顆粒水溶剤とカルタップ顆粒水溶剤は、個体群間で補正死亡率に差があったが、いずれも80%以下に留まった(表)。
4. 以上により、供試した各薬剤に対する殺虫効果の傾向は、個体群間で大きな差はないと考えられる。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 供試薬剤はいずれも、検定を実施した2022年6~8月時点でカキに対して登録があるが、ミカンキイロアザミウマに対する登録がない剤も含まれる。実際に使用する場合はその都度登録の有無と内容を確認する。
2. 効果の高い3剤のうち、プロチオホスは収穫前日数が長く、クロルフェナピルは着色期散布での薬害の危険性があるため、ミカンキイロアザミウマが加害する着色期に使用できる殺虫剤は収穫前日まで使用可能なスピネトラムのみである。
3. 今回の結果は五條市内のカキ産地で採集した個体群のみの調査であり、他産地では別途感受性を確認する必要がある。

[具体的データ]

表. カキ園から採集したミカンキイロアザミウマに対する常用濃度薬剤の殺虫効果(五條市)

IRAC コード	薬剤名 (供試した商品名)	希釈倍率	補正死亡率 (%) (供試虫数)		
			保天山団地 2022. 6. 28採集	奥谷 2022. 8. 8採集	牧Ⅱ 2022. 8. 8採集
1B	プロチオホス水和剤 (トクチオン水和剤)	800	100 (53)	97.4 (127)	98.8 (94)
2B	エチプロールフロアブル (キラップフロアブル)	2000	0 (14)	0 (60)	0.9 (129)
3A	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1000	0 (61)	0 (142)	0 (94)
3A	アクリナトリン水和剤 (アーデント水和剤)	1000	8.5 (47)	0 (76)	0.6 (70)
4A	ジノテフラン顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	2000	63.6 (11)	21.1 (49)	8.7 (10)
5	スピネトラム顆粒水和剤 (ディアナWDG)	5000	100 (33)	100 (77)	100 (85)
13	クロルフェナピルフロアブル (コテツフロアブル)	2000	100 (32)	97.1 (75)	100 (66)
14	カルタップ顆粒水溶剤 (パダンSG水溶剤)	1500	22.8 (79)	76.1 (88)	73.6 (95)

[その他]

研究課題名：病害虫診断技術調査事業

予算区分・研究期間：病害虫診断技術調査事業（植物防疫事業交付金）・2022年度

研究担当者：井村岳男

発表誌等：奈良県農業研究開発センター研究報告第55号